

自治研修 あきた

P.3 来年度研修体系
P.4 研修pickup
P.5～自治大学校派遣職員
受講レポート

No.84 令和7年3月発行
秋田県自治研修所 TEL 018(873)7100

私のお薦めの本（研修所図書室より）

秋田県自治研修所長 藤原 亨

日頃より、自治研修所の運営にご理解とご協力を賜り、また研修に積極的にご参加いただき、心より感謝申し上げます。

さて、私が自治研修所長に就任してから三年が経ち、この三月末をもって役職定年を迎えることとなりました。これまでの間、研修を通じて職員の皆様の能力開発や資質向上を支援できたことを、大変嬉しく思っています。今回は最後の寄稿として、研修所の図書室に所蔵されている中から、特に心に残った本をご紹介しますと思います。

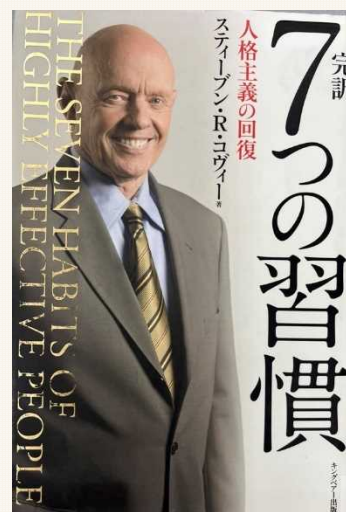
『完訳 7つの習慣 人間主義の回復』 スティーブン・R・コヴィー 著

これまで、図書室から月2、3冊ほど本を借りて読んできましたが、その中でも特に印象深かったのがこの本です。本書は、人生や仕事で成功し、充実した生き方をするための原則を示した自己啓発書です。依存から自立、さらに相互依存へと成長するプロセスを提唱し、次の7つの習慣を通して、効果的な生き方を指南しています。

- 第1の習慣 主体的である（自分の選択に責任を持つ）
- 第2の習慣 終わりを思い描くことから始める（ゴールを明確にする）
- 第3の習慣 最優先事項を優先する（緊急でなく重要なことを優先する）
- 第4の習慣 Win-Winを考える（双方が満足する解決策を探る）
- 第5の習慣 まず理解に徹し、そして理解される（共感的に相手を理解する）
- 第6の習慣 シナジーを創り出す（違いを活かし協力する）
- 第7の習慣 刃を研ぐ（心身・知性・精神を磨き続ける）

これらの習慣を実践することで、人格を高め、人間関係を改善し、目標を効果的に達成できるとされています。特に私の心に響いたのは、第2の習慣です。これは、「自分の目指すゴールを明確にし、そのゴールに向かって行動する」ことの重要性を説いています。日々の業務においても、単に目の前の課題をこなすのではなく、最終的に何を達成したいのかを明確にして取り組むことが求められます。

コヴィー氏は、この習慣を身につけるために「ミッションステートメント」の作成を勧めています。これは「自分はどんな人間でありたいか」「何を大切に生きていくのか」といった、自分自身の価値観や人生の指針を明文化するものです。私もこの本を読んだことをきっかけに、自分の「ミッションステートメント」を作成しました。「相手を思いやる」「誠実なコミュニケーションを大切にする」「笑顔で接する」といった指針や、「身体的・精神的・社会的に良好な状態（Well-Being）を目指す」「感謝の心を持ち、ポジティブに生きる」といった個人的な目標など、23項目を掲げ、職場や自宅に貼って日々意識するようにしています。その結果、自分の価値観や行動指針が明確になり、日々の選択や判断がぐれにくくなりました。



また、本書には自治研修所の研修内容とも重なるテーマも多く含まれています。例えば、「緊急ではないが重要なこと」に時間を使う（第3の習慣）、「傾聴」の大切さ（第5の習慣）など、業務や組織運営にも役立つ内容が書かれています。

次に『7つの習慣』以外にも、ぜひご一読いただきたい書籍として、次の四冊を紹介します。

『明るい公務員講座』 『明るい公務員講座 仕事の達人編』

岡本全勝 著

岡本氏は総務省（旧自治省）出身で、復興庁事務次官、内閣官房参与などを歴任し、現在は市町村職員中央研修所（市町村アカデミー）の学長として活躍されています。

『明るい公務員講座』は若手職員向けに、公務員の仕事の本質をわかりやすく説明し、公務員としての誇りを持ち、前向きに働くためのヒントが詰まった一冊です。

一方、『明るい公務員講座 仕事の達人編』は中堅職員や管理職候補者向けに、公務員として成果を出すための方法や、仕事の質を高める実践的なヒントが書かれています。キャリアを積む中で、「どうすればより良い成果を出せるのか」を考える上で役立つ内容となっています。



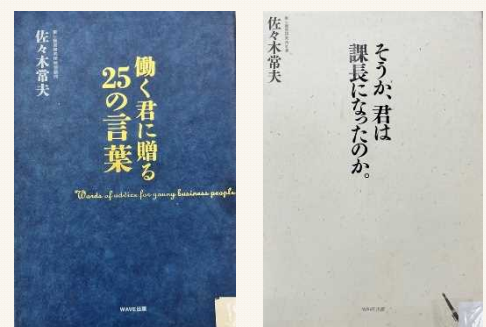
『働く君に送る25の言葉』 『そうか君は課長になったのか』

佐々木常夫 著

佐々木氏は秋田県出身で、東レ取締役や東レ経営研究所社長を務め、多くの著書を執筆されました。昨年4月に逝去されましたが、その言葉は今も多くのビジネスパーソンに影響を与えています。『働く君に送る25の言葉』は、社会人になったばかりの甥に向けた手紙形式で書かれたもので、若手職員向けに「仕事とは何か」「どう働くべきか」という考え方を伝えています。

また、『そうか君は課長になったのか』は、新任課長に向けた内容で、管理職向けにチームマネジメントや部下の育成に役立つ具体的なアドバイスが書かれています。課長職だけでなく、管理監督職員を目指す方にも有益な一冊です。

これらの四冊は、それぞれのキャリア段階に応じて多くの示唆を与えてくれる本ばかりです。研修所の図書室には、他にも多くの自己啓発や業務に役立つ本を揃えていますので、ぜひ積極的に活用してください。



実は私も、こうした自己啓発書やビジネス書をたくさん読むようになったのは、自治研修所に配属されてからでした。もっと若いうちからこうした本に出会って色々な知識、知見を吸収していれば良かったなあと後悔しているところです（これからは多少は挽回できると思っています）。皆様もぜひ自分に合った良質の本を見つけてください。

最後になりますが、今年度も研修に参加する職員を快く送り出し、研修に専念できる環境を整えてくださった皆様に、心より感謝申し上げます。今後も、研修を受講する職員が引き続き学びを深められるよう、ご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



令和7年度に自治研修所で実施する研修

役職段階別指定研修(7科目)

新規採用職員研修【合同】

※新卒者と職務経験者で日程が異なります。

3年目職員研修【合同】

Renewal

主査級職員研修

サブリーダー／地方リーダー研修

管理監督職員研修

課長級職員研修

人事評価者研修

組織力向上研修(4科目)

キャリア開発研修

キャリアデザイン研修

役職定年職員研修

現業職員研修

市町村職員研修(6科目)

新規採用職員研修【合同】

※新卒者と職務経験者で日程が異なります。

3年目職員研修【合同】

主任級研修

監督者級Ⅰ研修

監督者級Ⅱ研修

Renewal

市町村人事評価者研修

能力開発研修(25科目 および eラーニング)【合同】

主に一般職員向け(15科目)

行政法基礎

Renewal

民法基礎

業務に役立つ法令の読み方【地区別】
(オンライン①)

データの見方・活かし方(オンライン②)

Renewal

段取り力向上

ワンペーパー資料作成

伝わる話し方・説明の仕方

業務改善の進め方

基礎から学べる政策形成

発想カトレーニング

情報発信力強化

成功するプレゼンテーション(オンライン②)

クレーム対応力

レジリエンス向上(オンライン②)

アサーティブ・コミュニケーション

主に役付・管理監督職員向け(10科目)

Renewal

実務に活かせる政策法務

財務3表一体理解・分析法(オンライン②)

事業スクラップ

エビデンスに基づく政策立案(EBPM)

折衝・交渉力強化

Web会議スキル向上(オンライン②)

インバースケットによる実践トレーニング

コーチング

働き方改革のための業務マネジメント

リスクマネジメント

eラーニング

○ 県職員は応募研修(自己啓発)とし、一定の科目数及び時間以上の受講を推奨

○ 市町村・団体職員は一定科目数及び時間以上の受講が修了要件

(備考)

1 「能力開発研修」は、選択研修(必修)・応募研修

2 「合同」とは、県職員と市町村職員による合同研修

3 オンライン①: 講師のみリモート、受講者は県北、中央(自治研修所)、県南会場で受講する分散型集合研修

オンライン②: 講師及び受講者がリモートの完全オンライン研修



研修プログラム等詳細については、「令和7年度研修概要」をご確認ください。

研修 pick up

今年度実施した能力開発研修の中から、3つの研修をピックアップし、ご紹介します。

グループワークでは、いずれの研修においても、活発かつ熱心な意見交換が行われていました。

リスクマネジメント

こんな人に
オススメ!

- ・職場で起こりえるリスクを確認したい
- ・リスクの発生防止や発生時の対応を知りたい

ヒューマンエラー、コンプライアンス、情報漏洩、ハラスメントなど、さまざまな視点で具体的な事例が取り上げられ、リスクの発生防止や発生時の対応など、各自が実践しやすい内容を見つけることができます。

職場の慣習や常識がリスクとなる場合があること、コミュニケーションの重要性なども考え、他の自治体の受講者との意見交換により、自分の自治体(職場)での対応を考えることができる内容でした。危機管理広報とマスメディア対応といった実践的な内容も盛り込まれていました。

- ・日常に潜むリスクを考える「視点」を学ぶことができた。
- ・事例をもとに自分の職場に置き換えることで、より現実的に考えることができた。

受講生の声



エビデンスに基づく政策立案 (EBPM)

こんな人に
オススメ!

- ・有効な政策の立案を実践したい
- ・データを読み解く力を身につけたい

研修では、エビデンスに基づく政策立案の手法について学びました。政策立案では、一次情報(生の情報)と二次情報(既存の情報)を組み合わせること、また定量情報(数値化された情報)と定性情報(言語情報など)を用途に応じて使い分けることが重要です。さらに、仮説を立て、情報を収集・分析し、対策を立案する「情報活用の流れ」についても学習しました。

グループワークでは、自治体や企業の事例を題材として、政策立案について意見交換を行いました。受講者からは「今後の仕事に活用できそう」との声が聞かれ、有意義な研修となりました。



受講生の声



- ・改めて手法を学んだことで 自分に足りない部分についての気づきに繋がった。
- ・日々の業務改善でも使える解決策の作成方法が学べた。

インバケットによる実践トレーニング

こんな人に
オススメ!

- ・チームのメンバーを巻き込む力を高めたい
- ・一時に発生する複数の課題を迅速に処理したい

インバケットとは「未処理箱」という意味です。研修では、業務を遂行する際に直面するさまざまな問題を、時間的制約がある状況で、架空の立場になりきり、優先順位を考えながら迅速に処理していくシミュレーションゲームのような体験をします。

ただし、ゴールはゲームの結果ではなく、そこに至るプロセスを評価することで、自分自身の判断のスタイルや業務の進め方の傾向に気づき、ステップアップのポイントを明確にすることにあります。

- ・実践に近いプログラムを通じて、案件を処理していくうえでの考え方の癖をあぶりだしてもらった。
- ・最初から最後まで実践形式の緊張感のある内容になっていて、集中力を切らすことなく受講することができた。

受講生の声



自治大学校派遣職員 受講レポート *Study report*

今年度派遣された3名の職員から受講レポートをいただきました。



第1部課程第143期 ①

自治研修所 副主幹 佐藤 伸太郎

1 はじめに

一般的に職業に就いて長くキャリアを重ねると、どんな職場でも「ベテラン」と呼ばれる域に達するはずですが、しかしながら、我々公務の世界には人事異動があり、特に事務職では、必ずしも1つの分野に特化した業務経験を重ねるワケでもないことから、果たしてベテランと呼ばれるのは、いつ頃からなのでしょう？

この問いに明確な正解はないと思いますが、私なりの回答は「どのような異動先でも仕事に向かうための軸が完成され、自信を持って自らの仕事と向き合える」そんな職員像をベテランの姿だと思い浮かべます。自治大学校への派遣直前、過去に派遣経験のある先輩から「派遣後はどんな職場でも頑張れそうな自信がつくよ」と伝えられ、恐らく今の私と同じような感覚を持たれていたことでしょう。この自信を掴むための自己研鑽の機会が自治大学校への派遣です。

2 自治大学校のここが凄い！

自治大学校の凄さは、何より国（総務省）の威信!?をかけて、各界の著名な講師を招聘し、地方公共団体の職員に対し、活きた講義を提供していることです。



立教大学名誉教授 渋谷先生（憲法）の最終講義

研修の前半は、法制課目を中心に学びますが、憲法・民法・行政法の各法律は、法曹界では知らない人がいない各法律の大家と言える豪華な講師陣が集められ、同時に我々、受講生にとっての手強いハードルとなるテスト（効果測定）も用意されています。新たに覚えることよりも記憶から抜けていくことの多い私の年齢になって、まさかテスト勉強の日々が待っているとは派遣前には想像もできませんでした（過去問集が出回りますのでご安心ください）。

また、研修では、地方財政関連の講義も複数あります。過去に国の地方財政審議会では会長職を務められた3名の先生の講義を受けられる贅沢さは、それぞれの講師の強烈な個性も相まって、自治大学校以外では経験できない人選の凄さも感じます。加えて、近年、秋田県とも非常に繋がりの深い一橋大学の辻琢也教授による自治体行政学も名物講義の1つです。

3 第1部課程派遣の対象ターゲット

国や民間企業等での派遣研修と異なり、研修期間が短いため、家庭の事情等で1年以上の長期の県外研修が難しい方でも比較的に参加しやすい研修だと思います。

私が参加した第1部課程143期は、全体で36名と例年に比べると少数であり、男性が29名、女性が7名というメンバー構成で、4か月半の寮生活をともに過ごしました。



全国から届いた銘酒の数々と寮のフロアメンバー

派遣元の団体によっては、技術職採用の派遣者もおります。秋田県からも過去には、多くの女性職員が第1部課程に参加されていますし、女性限定の特別課程には技術職を含むたくさんの方々に参加されています。

私の同期は、最年長が48歳、最年少が27歳でした。平均年齢は約38歳であり、私は、上から4番目の年齢のため、平均年齢を結構押し上げていますね（本原稿の作成時点で46歳）。

講義内容には、管理職に向けた準備の意味合いも含まれることから、平均年齢と同じくらいの層を主なターゲットに考えていると思います。実際は、もう少し幅広くおおむね30歳超～管理職の手前くらいの年齢であれば、まったく違和感なく、どなたでも研修に参加できると思います。個人的には、頭髮に白いものが多く混じるのは私くらいでしたし、もう少し体力のある数年前に参加できたら良かったかなと感じます。

4 立川での寮生活（オフの時間）

全国から集まった素晴らしい研修生メンバーに恵まれ、週末や平日の夜間に1人で寮にこもる日は、ほぼありません。西の新宿とも呼ばれる立川は、再開発が現在も進行中で、街の魅力が年々増えています。交通の要所でもあり、中央線・南部線・武蔵野線を利用したアクセスの良さから、都内はもちろん、茨城・栃木・山梨・千葉・神奈川と週末のたびに足を伸ばし、沢山の思い出もできました。私のことをご存知の方は「食べ・呑み歩き」が趣味であることはご承知のとおりで、失った財の大きさに反比例し、大きな蓄えが身体にも備わりました。同期のツワモノは、4か月半で最大8kg増量したメンバーもあり、知識・経験を得る過程では、体重が増えることもこの研修期間を通じて学んだことの1つです。



都内名店を食べ歩きの一コマ

特に印象深かった思い出を1つ紹介すると、毎年秋に開催される「ワインツーリズムやまなし」のタイミングに合わせ、山梨ツアーを企画したことです。現地のワイン蔵を幾つも巡りながら、ワインとご当地の食を堪能するいわば「のんだくれ」の内容ですが、最高の1日でした。立川から甲府までは特急の利用で乗り換えもなく、朝から仲間たちと山梨のワインを満喫し、夜は甲州名物のほうとうを楽しむ旅。毎年開催されるので、是非、次の派遣メンバーにも参加してもらいたいと思います。



「ワインツーリズムやまなし2024」に参加

5 おわりに

派遣前に、過去の本県からの自治大学校派遣者の名簿を見せてもらう機会がありました。現役職員の皆さんはもちろんのこと、県庁を退職された先輩方も含め、錚々たるメンバーが名前を連ねており、自治大学校校友会秋田支部という派遣者のOB組織を構成しているそうです。コロナ禍もあって、近年は大規模な秋田支部の会を開催できていないそうですが、機会があれば、自治大学校での生活や立川の街について、皆さんで語り合いたいですね。この度の派遣に当たって、校友会名義による仕送りや過去の派遣メンバーから個人的な仕送りもたくさん頂戴し、本当にありがとうございました。この場を借りて、御礼を申し上げます。

最後になりますが、この駄文を読んでもれたあなたへ。私を含めて、自治大学校の過去の派遣者は、近い将来、あなたが自治大学校への派遣希望を出されることを期待しておりますし、全力で応援します。女性の皆さまは、特別課程へのご参加も是非。きっと全国に素晴らしい仲間とのネットワークが生まれることでしょう。個人的なご相談もお待ちしておりますよ！



無事に卒業（卒業式の一コマ）



自治研修所 主任 斉藤 大地

1 はじめに

業務を遂行していくにあたり能力や知識不足を痛感することが多くなってきたと思っていたところ、幸いなことに自治大学校で研修を受講する機会を頂戴しました。

このレポートで、研修内容や寮生活についてお伝えし、自治大学校への派遣について興味を持つ職員が少しでも増えれば幸いです。

2 自治大学校について

自治大学校は総務省が設置した研修所で、立川市にあります。研修棟と寮が併設されており、研修生は寮で共同生活を送りながら研修を受講します。

自治大学校では様々な研修が実施されていますが、第1部課程は、主に都道府県や政令指定都市の職員を対象としている研修です。

私が受講した143期は、全体で36人となっており、北は岩手県から南は熊本市まで幅広い地域から研修生が集まりました。

3 研修内容について

<全体>

第1部課程では、地方公共団体の業務の基盤となる法制課目、行政課題の解決に向けた施策の企画立案に必要な政策形成能力を高めるための公共政策課目、管理職としてのマネジメント能力養成等に資する行政経営課目など、様々な講義を通じて実務的、実践的な知識を習得します。

研修前半（10月～12月）は憲法に始まり民法、行政法、地方自治法、地方公務員制度、地方税財政制度といった法制課目、後半（1～3月）は政策提言を行う「政策立案」課目を中心とした日程が組まれています。

<研修前半>

様々な課目で構成される前半は課題が立て込んでおり、提出締め切りに追われます。ほとんどの課題は、他の班員と共同で作成する必要があり、自分のペースで物事を進めていくことができません。夜遅くまで班員と話し合う日々はなかなかハードでしたが、その分、得るものは大きかったと思います。

また、法制課目には「効果測定（※テスト）」と班単位での発表があります。12月に入ると毎週のように効果測定や発表があり、その準備で土日のほとんどが費やされます。効果測定に向けた勉強、発表準備、その他の課題提出が立て込む12月が一番大変な時期でした。

<研修後半>

後半は「政策立案」課目が中心となります。この課目では、研修前半とは異なる6名で編成される班毎に政策提言のテーマや自治体を選定し、最終的に報告書としてまとめ、卒業式の前日には、実際に首長に対して政策提言を行う想定で教官を前にして発表を行います。

現状や課題を深掘りしていくにあたり、先進的な取り組みを実施している自治体へ赴き調査をする時間も設定されています。私の班は兵庫県や奈良県の職員から演習を進めていく上で非常に参考となる話を聞くことができました。

また、班には外部指導教官が1人つき、定期的に指導があります。私たちの班の担当教官は総務省キャリアOBの気さくな方で、一つ一つのアドバイスが的確かつ過不足無く本当に勉強になりました。こうした素晴らしい教官との出会いも自治大学校ならではの思い出です。

政策立案の班員とは、研修課目の中で一番多くの時間を過ごすことになります。全員と方向性を共有していくのがこれほどまでに難しいとは思いませんでしたが、今後、チームで業務を円滑に遂行していく上で示唆に富むことが多く、とても良い経験になりました。

<各種講義>

法制課目や演習課目以外にも防災、DX、医療福祉やまちづくりといった様々な講義が展開されます。これらの講義を受講したことは、人口減少や人口構造の転換という観点から、今後本県がどのように対応していくべきなのか考える良い機会になりました。

余談ですが講義では体育があります。この課目では本気でラジオ体操をするのですが、ラジオ体操は身体のほとんどの筋肉を使用する素晴らしい体操であると認識することができました。もちろん講義翌日には筋肉痛になりました。

4 研修以外について

<寮生活>

フロア毎に共有スペースとして設けられている談話室に毎日全員が集まって飲んでいる、というイメージでしたが私のフロアはそんなことはありませんでした。毎日来る人もいれば、ほとんど来ない人もいました。私のフロアは穏やかな研修生が多く、和気藹々として、ゆったりとした雰囲気です。寮生活を送ることができました。

<食生活>

平日の昼食は、休憩時間も限られているため、学校内の食堂を利用する人が多いです。私もお世話になりました。昼食の価格は600円で味は普通です。

夕食は、立川駅周辺の飲食店に行く研修生もいました。

私の場合、研修後半は若干のゆとりが生じ、色々なお店に行くことができました。1月中旬から毎日のように通うほど素晴らしい食堂に出会えたことが一番の思い出です。



とある日の昼食

<休日の過ごし方>

講義が何も入っていない休日は、どこにでも行くことができます。観光、美術館巡り、スポーツ観戦等、朝から晩まで精力的に活動している研修生もいました。単独行動もあれば、企画して参加者を募り、他の研修生と一緒にどこかに行くこともあります。基本的には住んでいる寮のフロアごとですが、研修生全体のイベントとして屋形船に乗りました。真冬でしたがとても楽しかったです。



↑ 屋形船の船上にて ↓



5 おわりに

快く自治大学校へ送り出してくれた職場の皆様、差し入れを送ってくださいました校友会の皆様には感謝申し上げます。

皆様のおかげで様々な出会いを経験し、充実した研修生活を送ることができました。失敗したことも多々ありますが、それを含めて大きく成長できました。卒業して終わりではなく、これからも学び続けていきます。最後に長期間の研修にも関わらず送り出してくれた妻に感謝しています。今後は家事に育児に勤しみます。



無事に卒業（卒業式の一コマ）



1 はじめに

令和6年8月29日、北海道から沖縄まで全国各地から88名の研修生が東京都立川市に集い、9月27日までの約1ヶ月間、かけがえのない時間を共に過ごしました。

47期卒業生として、これから第1部・第2部特別課程の受講を検討する皆さまの参考になればという思いで書き進めます。

2 研修開始まで

第1部・第2部特別課程は、憲法・民法・行政法・地方自治制度・地方公務員制度・地方税財政制度についてeラーニングを受講することにより、短い研修期間で政策立案能力・行政経営能力を習得することができるというのが大きな特徴です。eラーニングは、1ヶ月半くらい前から受講できましたが、時間が限られている中で計67時間というボリュームをこなすのは想像以上にハードでした。

また、事例演習の事前課題の提出というものもありました。事例が記載されたテキストを熟読し、課題に対する所属自治体の現状や取り組みを調査し、所属自治体の課題を抽出、課題に対する解決策の検討を個人で行い、設問に対する答えを指定のA4用紙2枚程度にまとめて提出しました。この事例テキストについても、各事例毎に100ページくらいあり、読んで理解するだけでもかなりの時間を要しました。

課題に追われているうちに、きっと参加される方は優秀で、これくらい知っていて当たり前だろうな、演習はどのようなことをするのだろう、ついて行けないのではないかな等、不安が押し寄せました。

3 研修内容

座学、事例・ディベート演習、特定政策課題レポート作成の3要素で構成された研修でした。いざ研修が始まると、研修前の不安を感じる暇もなく、それぞれの課題に追われながらも充実した日々を過ごしました。

講義は1コマ70分、どの科目も一流の講師陣からの講義で、短期間で幅広い分野を学ぶことができました。70分という時間が短く感じられる程、引き込まれる講義内容で、自治体の問題や課題について、自分なりに深く考える良い機会にもなりました。

特に当県は少子高齢化が先行する自治体ですので、例として取り上げられる機会が多くありました。今までは自分の業務のことしか考えていませんでしたが、次第に、どの課題に対しても当事者意識を持って講義に臨むようになりました。

事例演習は、事前課題を基に地方公共団体が直面する事例に対して、課題の抽出と解決策を議論しました。研修生それぞれの自治体の背景や考え方が異なるため、多くの意見や具体例を聞くことで考えを深めることができました。47期は、防災、子育て、公民連携がテーマとなっていました。いざ討論が始まると、切り口や課題設定、解決の方向性も新鮮で、同じ課題を様々な方向から考えることができました。



事例演習のメンバー

ディベート演習は、特定の議題について否定側と肯定側のグループに分かれ、自らの主張の立証と相手方への反論を行うというものでした。限られた時間の中で決められた方向性に対して有効な論拠を探し説明する、相手の立場に立って主張を予測し、反論するという難しさを痛感しました。お題は「地方公共団体は、町内会の役員などの地域活動に積極的に取り組む職員の人事評価を加点すべき」「地方公共団体は、議会答弁の作成に要する職員の事務負担を軽減するため、生成AIを活用すべき」など、自治体の業務に関わるテーマで実施しました。

特定政策課題レポートは、いくつかのテーマから1つを選択し、自分の所属自治体に対して政策の提言をおこなうというものでした。私は「女性活躍推進の意義や取り組み内容」をテーマに選択しました。

文字数が8,000～12,000字とボリュームがあるレポートを作成したのは初めての経験でした。データに基づく現状分析、分析結果と課題の抽出、課題解決の方策の検討を経て、最後に政策提言をするといった構成で、政策を立てるために必要な方法を学ぶことができました。

4 研修生活

研修中は、研修生全員が寮で寝食を共にします。個室はビジネスホテルの1室のような感じで、快適に生活することができました。47期は3階から7階に分かれて生活しました。各フロアに談話室があり、夜には全国から送られてきた地酒、銘菓などを頂きながら情報交換をしていました。これまでのご経験や仕事への向き合い方、仕事と子育ての両立など、各自治体で活躍されている方々から貴重な話を聞くことができました。ちょうど研修中に誕生日の方がいて、研修生で誕生会をしたり、栃木県の方が主催で餃子パーティーがあったりと皆さんと交流することができました。研修中はもちろん、課外時間も含め濃厚で貴重な時間だったと思っています。



卒業パーティでの一コマ



北海道・東北の同期メンバー

5 おわりに

私は現在子育て中で、派遣前は1ヶ月も家を空けることは考えられませんでした。それでも、自治体職員として、もっと学びたいという思いで参加を決めました。研修中は、家族の協力と週末に帰省するというスタイルで乗り切りましたが、一度帰省すると子供と離れるのが辛くなり、研修に戻るのが嫌になったこともありました。多少の無理はありましたが、それでも、今では受講する価値のある研修だったと実感しています。全ての家庭で実現できることではないと思いますが、子育て中の方も含め、多くの女性職員にこの研修のことを知っていただき、参加するきっかけになれば嬉しいです。

最後に、研修の機会をくださった職場の皆さま、激励とご指南を頂きました自治大学校卒業の先輩方、自治大学校でお世話になった講師、職員の皆様、そして一緒に学んだ同期の仲間達に心より感謝申し上げます。



無事に卒業（卒業式の一コマ）